

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

技術・家庭科 1年生

1 日常の学習状況について

1年生の技術・家庭科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 全体的には授業への取り組みは意欲的で、学びを楽しんでいる生徒が多い。
- (2) 経験が浅いながらも、班で協力して実習を行うことができている。
- (3) 課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が各クラスに数名いる。

2 期末考査等の結果を踏まえて

時間内に回答できない生徒が数名いた。また、事前に出題告知した知識を問う問題も正答率が低く、授業プリントを確認できていない生徒が多く見られた。

3 学力に関する状況

1、2より、本校の現1年生の技術・家庭科の学力については、以下のような傾向が見られる。

- (1) 知識の定着に課題が残る。
- (2) 課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が一定数いる。

4 教科の課題

(1) 学習面

実生活における実践的、体験的な活動が不足している生徒が多く、基礎的な知識との結びつきが弱い。

(2) 指導面（授業評価アンケートより）

「意欲的に取り組めるような授業になっている」項目では、肯定的回答が97.6%を占めているが、知識の定着が十分にできていない。

5 授業改善について

(1) 学習面

① 実践的、体験的な活動の充実

生活に即した実習や、授業のグループワークを通し、知識と技能が有機的に結びつくようにする。

② 振り返りの時間の確保

学習内容に対して分かったことを自分なりにまとめ、知識が定着するようにする。

(2) 指導面

① 特別支援教育の視点に立った教材提示

授業の流れを分かりやすく提示し、見通しが持てるようにする。実習の際は手順を何度でも確認できるようにICT機器を効果的に活用する。

② プリント類の工夫

生徒一人一人が記入しやすいよう、授業プリントや振り返りプリントの形式を工夫する。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和6年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 学期ごとの観点別学習状況評価を比較
- (2) 期末考査の結果や作品

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

技術・家庭科 2年生

1 日常の学習状況について

2年生の技術・家庭科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 意欲的に取り組む生徒は多いが、苦手意識をもっている生徒も目立つ。
- (2) 課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が各クラスに数名いる。

2 期末考査等の結果を踏まえて

授業プリントからの出題等、一般的な問題については正解率が高かった。

3 学力に関する状況

1・2より、本校の現2年生の技術・家庭科の学力については、以下のような傾向が見られる。

- (1) 主体的に考え学習に取り組むことが難しい生徒が一定数いる。
- (2) 経験不足のため、一つ一つの作業に時間を要する。

4 教科の課題

(1) 学習面

実生活における実践的、体験的な活動が不足している生徒が多く、基礎的な知識・技能との結びつきが弱い。

また、その結果として実習の際の技能や表現力の向上に結びつかない。

(2) 指導面（授業評価アンケートより）

「意欲的に取り組めるような授業になっている」項目の肯定的回答率が昨年度よりも低くなっているため、ICT機器を効果的に活用し、生徒の興味関心を引き立てる工夫をする。

5 授業改善について

(1) 学習面

① 実践的、体験的な活動の導入

実践的、体験的な活動（実験・実習等）を積極的に取り入れ、知識と技能とが有機的に結びつくようにする。

② 振り返りの時間の確保

学習内容に対して分かったことを自分なりにまとめ、知識が定着するようにする。

(2) 指導面

① 特別支援教育の視点に立った教材提示

特別な支援の必要な生徒など個別に配慮が必要な生徒が、授業を受ける際に理解できるように、学習内容の提示方法を工夫する。また、実習の際は手順を何度でも確認できるようにICT機器を効果的に活用する。

② 安全指導の徹底

実習の流れを各作業ごとに提示し、見通しがもてるようにする。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和6年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 学期ごとの観点別学習状況評価を比較
- (2) 期末考査の結果や作品

1 日常の学習状況について

3年生の技術・家庭科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 全体的に落ち着いて授業に取り組んでいるが、意欲的な発言はみられない。
- (2) グループワークでは班員で協力することができる。
- (3) プリント類は熱心に記入する生徒が多い。
- (4) 提出物関係は良好であるが、一部に対応できない生徒がいる。

2 期末考査等の結果を踏まえて

設問に対して適切な語句で解答できている生徒が多く、基礎的な知識はある程度定着していると感じた。思考力・判断力・表現力を問う問題では、授業の理解度により差が見られた。

3 学力に関する状況

1、2より、本校の現3年生の技術・家庭科の学力については、以下のような傾向が見られる。

- (1) 教科に対する学習意識が高く、全体的にある程度知識が身についている。
- (2) 課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が一定数いる。

4 教科の課題

(1) 学習面

基礎知識がある程度定着しているため、思考力・判断力・表現力を高める発展的な発問が必要。

(2) 指導面

サポートが必要な生徒への配慮が欠けている。また、生徒が身近に感じられるような授業展開ができていない。

5 授業改善について

(1) 学習面

① 日常生活に基づいた学習題材の導入

生活課題の発見と解決に向け、主体的に学ぶことのできる学習題材を取り入れ、思考力・判断力・表現力を身につける。

② 振り返りの時間の確保

振り返りの際に自らの授業に対する考察ができ、より深い思考ができる時間を確保する。

(2) 指導面

① 指導と評価の一体化

指導と評価を一体化するべく、評価の過程をできるだけ透明化し、どの部分を補えばよいか理解できるようにする。また、授業のねらいをはっきりとさせる。

② 特別支援教育の視点に立った教材提示

特別な支援の必要な生徒など個別に配慮が必要な生徒が、授業を受ける際に理解できるように、学習内容の提示方法を工夫する。また、実習の際は手順を何度でも確認できるようにICTを活用する。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和6年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
- (2) 期末考査の結果や作品